

科目名	看護管理学 Nursing Management		担当教員 (研究室番号)	中西 貴美子 (205)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修 年次	4年次 前期	科目 区分	専門科目・実践基盤看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1 (15)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	看護者として組織の中で看護実践を行うために必要な看護管理の基礎的知識を理解し、看護を社会との関係性の中でとらえることができるマクロの視点を身につける											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による協働活動に参加できる。(技能・表現)										
	関連するDP	C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現) B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門知識を有している。(知識・理解)										
到達 目標	・病院組織の外部環境および内部環境による組織への影響を知る ・モチベーション、コンフリクトマネジメント、タイムマネジメント、リーダーシップなど看護管理の基本的スキルを理解することができる ・患者の権利や安全管理について、看護の質保証の視点から理解することができる ・看護管理と看護実践の関係性を説明することができる ・看護専門職としてのキャリア開発について理解し、今後の自己のキャリアを考えることができる											
成績評価方法 (基準)		試験 (40%) レポート (40%) 講義ごとのリアクションペーパー (20%)										
再試験の有無と 基準等		原則として実施しない：課題とレポートの配点割合が高いため (採用試験等、特別な事情がある場合は例外とする)										
教科書												
参考書等		・吉田千文他編：ナースンググラフィカ看護の統合と実践①看護管理第5版、メディカ出版 ・原玲子：学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門第2版、日本看護協会出版会										
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と学生 への期待		看護は一人の方でできるものではありません。よりよい看護実践を行うためには、組織（チーム）としての対応が必要であり、看護管理（マネジメント）が重要となります。看護管理学は看護管理者に限らず、免許を持った看護専門職者として、実践者というだけではなく、組織人としての役割をも果たし成長していくために必要な知識であることを認識し、講義に臨んでください。										
備考												
回	学習項目				学習内容				主担当 教 員	授業 方法		
1 回	看護管理とは 病院組織と看護管理の歴史の変遷				看護業務および看護管理の概念、マネジメント等関連用語を整理するとともに、歴史の変遷を振り返りながら看護管理の過程・実際・特徴を学ぶ。				中西	講義		
2 回	看護をめぐる動向、医療制度 医療経済・看護政策と行政				日本国内における医療の現状について取り巻く環境を含めて概観し、それらの看護への影響と医療保険制度との関連を学ぶ。				中西	講義		
3 回	看護管理に関する法律・倫理 保健医療の機能分化と連携				保健師助産師看護師法だけでなく、看護業務・看護管理の関連法規の概要および組織の倫理を学ぶ。また、看護の専門性と多職種連携の実際、地域包括システムについて学ぶ。				中西	講義		
4 回	看護部門組織構造と機能				看護部門の病院組織内の位置づけ、看護部門の組織構造、それぞれの機能と役割について学ぶ（病院・診療所の管理・運営を含む）。看護提供方式の種類と実際について学ぶ。				中西	講義		
5 回	看護部門のマネジメント (組織行動)				看護部門のマネジメントの基礎となる考え方やスキルを学ぶ。 モチベーション、組織文化、コンフリクトマネジメント（交渉）、タイムマネジメント、リーダーシップおよび情報のマネジメント				中西	講義		
6 回	看護の質の管理				医療サービス・看護サービスの考え方と質の管理について学ぶ。 医療・看護の標準化とクリニカルパス、看護必要度等				中西	講義		
7 回	医療事故と医療安全				リスクマネジメントの実際を知り、安全管理体制の在り方について学ぶ。				中西	講義		
8 回	看護専門職のキャリア開発				専門職としての生涯学習の必要性、人的資源開発の実際（クリニカルラダー、専門・認定看護師等）について学ぶ。				中西	講義		

学 習 課 題	
4 回目課題(事前)：	就職を希望している組織の組織構造、看護管理体制、看護提供体制、看護教育体制について調べ、所定の用紙にまとめる。(用紙は、講義開始時に配信する。) 4回目講義終了時に提出する。 進路が確定していない場合は、実習病院や有名称病院など、どの病院でもよい。(レポート配点 10 点)
8 回目課題(事後)：	「組織で働く看護職としての自己の課題」をA4レポート 1 枚(1200 字程度)にまとめ(表紙は不要、ページの最初にレポートの題名と提出日、学籍番号、氏名を記入)、指定の期日までの提出する。(レポート配点 30 点)

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員は、看護管理職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義を行う。